

ずいそう



東京から能登を応援する「のと部」を、昨秋から月に一度開催している、参加者(のと部員と呼んでいる)はのべ100人を超えた。この場で出会った人たちが一緒に現地に行き、ボランティアをしたり茶話会を開いたり。また、現地に行く

のが難しい人たちは、情報収集をしてSNSで発信したり、ラジオ番組を作ったり。それぞれができることを見つけ、主体的に行動することが目標だ。

私たちがいま、支える番

瀬尾夏美(アーティスト)

れば、地震の日から何も進んでいないと語る人もいて、被災した人たちの間でも、置かれている状況や抱えている感情はさまざまだと感じた。

ただ、高齢化と過疎化でそのハードルは高そうだと語る。災害はどれも異なるものだから、復興像も異なる。能登で被災した人たちがそれぞれのこれからを選択できるように、いかに支えられるか。被災しなかった私たちが、いま、支える番だ。

災害が増えていく時代に、助け合いは必須だ。いつでも動ける体にしておかなくては、と思う。



ポカポカな日が続くと、つい口ずさむ歌、あなたはなんの曲ですか?と、口ずさみ前提の質問から入ってしました。うららかな春を歌った「花」か、聖子ちゃんの「チェリーブラッサム」かな。ユーミンのあの名曲も忘れちゃならないと、メドレーで鼻歌しながら洗濯物を干すよ。春の歌は身も心も軽快に

軽快なおしゃれがしたい!

する効果あり。コートも脱ぐ季節、でも何か羽織るものは欲しい。サンダルにはまだ早いけれど、冬の履き物は脱いでしまいたい。服も靴も軽めなタイプが希望です。



て着続けている。今年はバサッと空気を存分に含ませた着方をしたいな。と思っていると、こころだ。はたらく感じがよりいっそう軽快! フューシャピンクのパンツでいってみようか。ちよつと派手か? いえいえせつかく今月70歳になるんだもの、このくらいいつちやえ

い色を選ぶよ。訳あって(肉のせいで)前ボタンが留まりにくくなったワンピースは一番のコート候補だ。半袖ワンピースと重ね着しておしゃれに復

活。合うのは布製の軽い靴やわらかい革のダンスシューズかな。得意だったスキップも、このところ不得手になってしまったけれどこの靴でなら!とステップ。浮かれる人みたいだけれど、ついついね。



代田知子さんおすすめの子どもの本 大人もぜひ!



たんぽぽはひとがすき 植沙萌 写真 嶋田泰子 文 (幼児~)



ビリーと森のミンピン ロアルド・ダールコレクション21 ロアルド・ダール 作/クエンティン・ブレイク 絵/おぐらあゆみ 訳 (小学校中学年~)



おかあさん、いいことおしえてあげる シャーロット・ゾロトウ 文/ジュリー・モースタッド 絵/福本友美子 訳 (小学校低学年~)

彼女たちに守られてきた

松田孝子

世界幻想文学大賞を受賞した『おばちゃんたちのいるところ』(2021年)など、女性であることの面白さや理不尽さを潔く言葉にしてきた著者の、雑誌

僕には鳥の言葉がわかる

鈴木俊貴

10年かけて森の中で観察・実験を繰り返して、「シジュウカラが20以上の単語を組み合わせて文を作っている」ことを世界で初めて解明した研究者の科

編集部から

望み続けてきた学校給食や高校授業料の無償化。実現に向かう一方、その質が問われている。本当の無償化とは...現場や当事者の声をつかみ、改善を求め、世論を上げ行政に迫ることをこれからも(り